

序

今年度から国立大学が法人化され、筑波大学附属である本校も附属学校としての存在意義を明確にすると共に、特色ある学校づくりが求められています。そのために、本校では、これまでの実績を基に、「社会のトップリーダーを育てる教育の実験的実践」を校内目標として掲げ、筑波大学と連携しながら今日的教育課題に取り組むことになりました。その第一歩として、すでに筑波大学の教育学関係の先生方と「中等教育研究会」を立ち上げ、今年度からの3年間文部科学省の科学研究費の支援を得て、「中・高一貫による才能教育プログラム開発の基礎的研究」を研究課題とするプロジェクト研究をスタートしました。また本校主体の「リーダー形成プロジェクト」も、大学の学内プロジェクトの一つとして採用され、現在研究を進めているところです。

本校は、平成14年度から「スーパーサイエンスハイスクール、SSH」の研究開発校に指定され、いま大学や国立研究機関の先生方の協力を得て、特別授業や特別講演等を実施しています。このSSHにおける研究課題は、「先駆的な科学者・技術者を育成するための中高一貫カリキュラム研究と教材開発」です。これは21世紀に第一線で活躍していく科学者や技術者の芽を伸ばし、最先端の研究成果や高度な内容を学習させる中高6カ年のカリキュラムの構築を目標とするものです。国際的な場で活躍する科学者や技術者であるためには、理系の専門的な知識だけでなく、科学哲学や国際社会の理解、歴史認識、英語力や表現力、情報リテラシーなども欠かせません。中等教育課程はその足固めをする重要な段階です。したがって、本校では中・高一貫性を活かし、6カ年を見据えた教育研究を行っています。このSSH事業も上述の「トップリーダーを育てる教育の実験的実践」の一環として位置づけています。

このような新しい事への取り組みのほか、日常的な授業の改善にも取り組んでいます。

本論文集は、2004年度の本校における教育の実践研究の成果をまとめたものです。本44号では、中・高一貫（連携）教育における学校行事やテーマ学習、総合学習などの実践研究のうち、今年度のプロジェクト研究9編と個人研究5編を掲載しました。本校では、このほかにも、毎年秋には教育研究会を全国より多数の参加者をお迎えして開催しており、この報告書も別に刊行しています。今年度は各教科の公開授業と研究協議会のほか、SSH事業と関連して「SSH校からの発信-3年間の教育研究を行って」というテーマで、他のSSH指定校4校にも加わっていただいて、報告とパネルディスカッションを行いました。SSHの中で実施している内容も報告集としてまとめていますが、逐次本校のWebサイト上でも発信しています。

国立大学が法人化されても、その附属学校は実践研究の場である事には変わりありません。そのため、学習指導要領の展開研究に止まらず、将来の研究の在り方、進め方を追求する能動的な実践研究が望まれます。本校における実践研究の一層の深化を図るためにも、関係各位には、これらの諸報告をご覧頂き、忌憚のないご批判やご教授を賜わることができれば幸いです。

2005年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校
校長 向高 祐 邦